



台風後のサクラの開花

2016年の夏は台風が立て続けに北海道に上陸し、各地に甚大な被害をもたらしました。8月17日の夜には台風7号が襟裳岬付近に上陸し、台風の東側にあたる釧路では記録的な暴風が吹き荒れました。暴風は南風で海からの塩分を含んだ潮風となったこと、また降水量が少なく植物の葉についた塩分が洗い流されなかったことが相まって、樹木の葉や草本が枯れている様子が沿岸部を中心とする広い地域で確認されました。

8月なのに秋のような風景になってしまった釧路地方、しばらくすると興味深い現象が起こりました。博物館前に植えてあるサクラが一輪、二輪と咲き始めたのです。私自身は不在にしていたため9月7日に初めて確認したのですが、博物館友の会の方の話では博物館前で9月4日に花を見たとのことでした。9月10日過ぎからは季節外れのサクラが新聞やテレビであいついで話題となり、これらの報道によると市内各地では9月5日前後に咲き始めたところが多いようでしたが、最も早いものでは台風翌日の8月18日に確認された例もあったそうです。また、ハマナスやエゾノコリンゴ、目立たないものではフッキソウも季節外れの花を咲かせていました。ハルニレやカエデ類などは再び展葉

し、新緑の季節のような光景も見られました。

これらの現象の原因は諸説あるようですが、落葉による植物ホルモンの変化により、夏の間形成された翌年の花芽や葉芽の成長抑制が解除され、芽が開いてしまうようです。2017年の分の花芽が先に咲いてしまった博物館前のサクラ、5月にはどのくらいの花が見られるでしょうか。 (加藤ゆき恵)

参考：一般社団法人日本植物生理学会 ホームページ



常設展示リニューアルよもやま話～ジオラマを制作してみ～

私がイメージしていた新展示のジオラマは今年度ベースとなるジオラマを制作し、その後少しずつ手直しを加えながら、新たな標本を追加して、進化し続けることが可能な展示でした。しかし、ジオラマを制作する上で大きな問題が2つありました。一つ目は、ジオラマ制作を専門業者に頼むほどの予算がないので自作するほかないこと。2つ目は、館内の既存のミズゴケ湿原等ジオラマの完成度の高さでした。これらは30年以上前に専門業者が制作したのですが、実は未だに展示業者の間で完成度の高さが全国屈指と言われているほどなので

す。新展示が既存の旧展示より見劣りするのではマズイが、素人同然の自分がプロ並みのジオラマを造れるのか?館内のジオラマを見本に7分の1ミニチュアジオラマを作りつつ、制作工程のシミュレーションを繰り返しました。挙句に出した答えは無謀にも「大変そうだが、なんとかなりそう!?’’でした。植物レプリカについては彩色などの専門技術が必要なので、プロ並みの完成度を出すのは難しい。一方、プロのジオラマでも、スゲやヨシなどの実物素材が多く使われていて、実物であれば、玄人と素人の差はつきにくい。そう考えると、造れる気

がしてきました。苦労したのが、サンショウウオのジオラマの土壌断面の造形でした。湿原や森で採集した土壌や植物の根を布団乾燥機で乾燥させた後で、電子レンジにかけて、蟻や虫の卵等を駆除、内部のスタイロフォーム成型や湿感を出すための木工用ボンドによるコーティング等の作業がありました。加藤主任には植物の専門家としての観点からのアドバイスや植物のレイアウト作業、土屋主査には虫の駆除の他、山代主幹や貞國主事と共に造形作業全般をサポートいただきました。なんとかなった!?’’のは、総合博物館としての総合力と様々な形での職員の皆さんのサポートのおかげだと思います。(野本和宏)